



Osaka University of Human Sciences

大阪人間科学大学 校友会



会長挨拶



大阪人間科学大学校友会 会長
南 陽介

皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

本来ならこの時期に配布する広報誌には、6月に例年開催しております総会報告や学祭案内、学年同窓会のお知らせと掲載される予定でしたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な企画が中止を余儀なくされています。

校友会では、9月に会員の皆様に周知させていただきました総会議案について承認となり令和2年度の企画を進めているところです。そこで本年もアクティブラーニング支援でiPadを40台寄付致しました。コロナ禍でまだまだ進めることが出来ていない企画もあります。今後、学生・教職員の方々の意見交換会も随時開催を図っていき、更なる大学との協働を図りながら支援を充実していきたいと考えています。

いよいよ来年の6月に大阪人間科学大学は創立20周年を迎えます。大学の更なる発展には卒業生の皆様のご活躍もあってこそだと感じております。次年度に向けてさらに校友会の動きを止めることなく一歩ずつ着実に活動を進めてまいりますので会員の皆様もどうぞご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

まだまだ新型コロナウイルス感染症の脅威は予断を許さない状況です。これからも最善の注意を払っていただき、皆様のご活躍を心より祈念しております。

コロナ禍での教育活動



大阪人間科学大学 学長
田中 保和

卒業生の皆様、大阪人間科学大学の学長として4年目を迎えていますが、今年はコロナ禍のため、皆様の日常生活同様、大学での教育活動にも大きな制約がかかっています。

まずは、新型コロナウイルス流行の影響で、3月の学位記授与式が、中止せざるを得なくなり、卒業生の皆さんの4年間の労をねぎらうとともに門出を祝うことができなくなったことを誠に残念に思っています。

そして4月当初に予定されていた入学式や新入生オリエンテーションも登校による実施はかなわず、新入生は一度も登校できないまま、緊急事態宣言が発令され、国や大阪府による大学の休業要請を踏まえ、対面授業を実施することができず、全科目を27日からWEB授業で対応することになりました。新入生をはじめ在学生の皆さんには不自由をおかけしました。このような中で本学学生の皆さんには、外出自粛要請に伴い、身体面、精神面、経済面、さらにWEB授業での課題提出にも追われ、多重の苦痛を味わわれたことを残念に思っています。

そして、緊急事態宣言が解除され、6月15日からは一部科目での対面授業を行い、徐々にわ

ずかではありますが、大学の日常を取り戻しつつあり、前期授業を終了しました。続く夏休みの集中講義、9月23日からの後期授業は多人数の一部WEB授業を除き、大部分は対面授業を行うことができ、学生の皆さんの元気な声が大学構内で聴こえるようになり、私自身も元気を取り戻しました。

まだまだ制約のある中、当初10月に予定していました大学祭は12月のオンライン大学祭として準備を進めています。現在はまた、第3波とも観られる感染者拡大の傾向が現れ、今後に不安をいだかせています。

本来は最初にお礼を申し上げるべきなのに後になって申し訳ありません。前期以降のWEB授業において、ご支援頂いた校友会からの2度にわたるi-Padの寄贈は本当にありがたく効果的でした。各学科に分配して有効活用させていただいております。

最後になりましたが、南会長様はじめ、役員の皆様方、会員の皆様方に厚くお礼申し上げます。今後とも、校友会のご支援・ご協力のもと大学教育の充実に努めて参りたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

キャリアセンター課



卒業生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。お元気で活躍のことと思います。大阪人間科学大学は、今年4月の卒業生が第16期生となりました。皆さまが様々な分野でご活躍されていること、本当に嬉しく思います。

16期生の就職率は98%と非常に高い数値となりましたが、これも卒業生の皆さまが企業、福祉施設、幼稚園/保育園、病院など各々のフィールドでご活躍され、高い評価を受けられていることの証であり、その恩恵の賜物であると感じています。

実際に「大阪人間科学大学卒業生の〇〇さんが第一線で活躍しています。後に続く後輩をぜひご紹介ください」と言われることが多くあり、嬉しい限りです。特に今年世界を覆うコロナ禍にあってはとても心強く感じると共に、卒業生の皆様のお力添えをこれまで以上に実感しているところです。

また学生にとって最も有用な情報は卒業生の生の声です。職場の働きやすさや将来の展望、また「〇〇な学生にぴったりですよ」「実際のところは〇〇です」といった情報を頂けると、学生の進路選択の助けとなるだけでなく、職場とのミスマッチを防ぐこともできます。

上記の通り、キャリアセンター課にとりましては、卒業生の皆さまはとても頼りになる存在です。求人情報、現場の生の声や実習の受け入れ情報など、ご提供いただけましたら幸いです。

(キャリアセンター課： TEL：06-6381-3456、MAIL：career@kun.ohs.ac.jp)

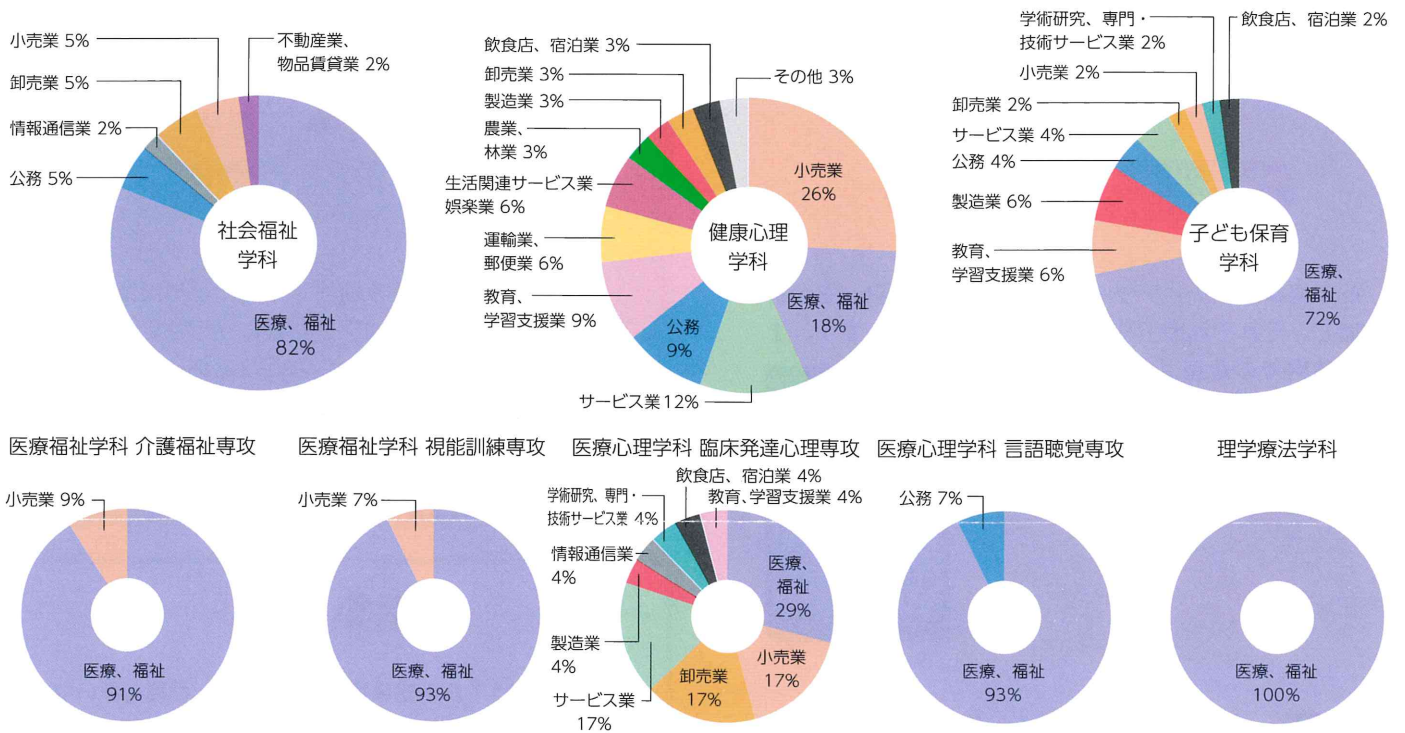
最後に、毎年お願いしておりますが、卒業生の皆さまに「就業状況アンケート」を実施しております。お送りいただいた内容は、在学生の就職支援に活かしております。先ほどもお願いしましたが、皆さまから頂戴する現場の生の声は貴重な情報となります。お手数ではございますが、ご協力よろしくお願い申し上げます。(キャリアセンター課 菅原大輔)

「就業状況アンケート」



ご協力
よろしくお願いします

学科・専攻別業種別就職状況

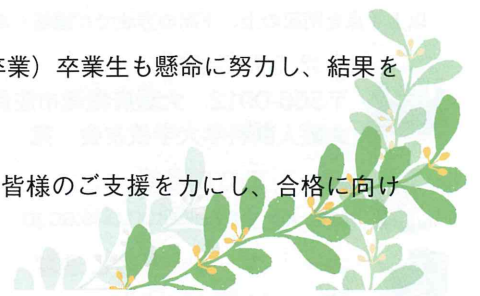


国家試験

各学科・専攻で取得可能な国家試験について、令和元年度（令和2年3月卒業）卒業生も懸命に努力し、結果を残すことができました。

第1期生であった理学療法学科では94.1%と素晴らしい結果となりました。

各学科において学生たちは意欲的に勉強に取り組んでいます。これからも皆様のご支援を力にし、合格に向けて取り組んでまいります。



大学支援費の活用を含めたサークルの活動報告



ボランティアサークル「てふてふ」顧問
社会福祉学科 准教授

吉池 毅志

ボランティアサークル「てふてふ」による、子どもへの支援活動について

ボランティアサークル「てふてふ」は、摂津市に住む子ども達を対象として、交流イベント活動や居場所支援活動を行なっています。

「てふてふ」の活動は、「子どもたちの経済状況や家族状況に関わらず、手ぶらで来て、思いっきり遊んで、お菓子をもって帰れるような、子どもの笑顔が増えるようなイベント活動を地域に提供したい!」という思いで行われてきました。しかし、そのような活動を行うにあたっては資金面での問題が大きく、活動費やイベント費をどのように工面するかが活動上の課題でした。そのような中で、卒業生の先輩方が校友会として現役大学生の活動を支援して下さる「大学支援費」は、資金面の課題を打開する大きな支援となりました。

支援して頂いた活動費を使用して、約2ヶ月に一回、季節に沿ったイベント活動（夏祭り、ハロウィンパーティー、節分イベント等）を行うことができ、「てふてふ」の活動を徐々に摂津市で広めていくことができました。このようなイベント活動を重ねていく中で、摂津市社会福祉協議会からお声かけ頂くようにもなり、摂津市の防災イベントではブースを設けて頂き

ました。また、摂津市のスクールソーシャルワーカーの方からもお声かけ頂き、子ども達が描いた絵を摂津市のJOCA大阪にて掲載する「みんなの絵画展」に協力させて頂く機会を得られたりと、様々な活動を展開する事ができました。

今年度に入ってからは、「せつつ地球村」という団体から子どもたちの居場所支援活動、外国人技術実習生への日本語サポート教室を行う「地球村ハウス」への事業協力を依頼して頂き、千里丘にて子どもたちへの居場所支援活動に協力するまでに至りました。残念ながら、コロナ禍による活動制約があり、子どもに直接関わる活動はできず活動への提案協力に留まっており、子どもたちと出会う機会を心待ちにしています。

このような活動を展開できたのも、「てふてふ」の活動を始めるにあたって活動資金をご支援頂いたおかげです。これからも「てふてふ」は摂津市の子どもたちが少しでも幸せになれるような活動を行っていきたくと考えています。卒業生の皆様にも「てふてふ」の活動に興味を持っていただければ幸いです。そして、引き続き本学在学生の多様な活動にご支援をよろしくお願い申し上げます。



(ボランティアサークル「てふてふ」2019年度夏祭りイベント)

コロナ禍における大学の国際交流や地域交流



社会福祉学科 准教授

泰 康宏

卒業生の皆様におかれましては、それぞれの職場や家庭などで益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。2019年度以降の大学の国際交流や地域交流の状況をご報告させていただきます。

公開講座では、2018年度から健康寿命を伸ばそうというテーマで開催させていただきました。2019年度はPart II～生活習慣病とどう付き合うのかというご講演を山岸副学長先生にいただきました。2020年度の公開講座は子どもの生活を支援する一家庭と地域をつなぐスクールソーシャルワークとは？というテーマで2020年11月28日土曜日13時30分から16時OHSホールで開催させていただく予定です。ふるってご参加ください。

2018年の公開講座をきっかけとして、理学療法学科の奥研究室による『健康寿命を伸ばすトレーニング講座』が2019年5月から地元自治会の方々を対象にスタートしています。定期的な身体機能の測定会には学生さんの協力を得ています。

2020年2月からは中断となりましたが、ようやく2020年9月から再開の運びとなっております。度末には、地域学術交流サロンとして成果報告をできればと予定しています。

2017年11月カンボジアにある孤児院の子どもさん22名が本学の学生と交流を行いました。このことをきっかけにカンボジアスタディツアーの企画準備が始まりました。2018年には安全面や生活面、研修内容の下見を行い、2019年度には対人援助の基礎を学ぶカンボジアスタディツアーの募集開始されました。この時には校友会様の在学生のやりたいを支援する「自己啓発支援基金」のサポートを受け、最終的には21名の学生の申し込みを得ました。事前研修も終え、いよいよカンボジアに向けて出発!という段階になってコロナウイルスの登場でした。2020年1月末に学長先生と何度も協議を重ね、断腸の思いで中止が決定されました。現在、海外研修を企画できるような段階にはございませんが、この場をお借りして、校友会に深く感謝申し上げます。今後、学生の国際・地域交流をどのように図っていくのかというのは、大変な課題です。しかし、アプリやJICAの遠隔講義などを活用しながら様々な企画を実施していきたいと存じます。今後ともご支援、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

大学支援費の活用を含めたサークルの活動報告



社会福祉学科 助教

萩原 昭広

ボランティアサークルLico（以下、Lico）は、心理・子ども・言語・社会福祉などの学科・専攻から多くの学生が集まり、様々な人との出会いを大切にしながらボランティア活動を行っています。同時に、サークル員同士のつながりも意識し、アイスブレイクなどの活動を積極的に取り入れ、サークル全体の絆を強めています。2019年度は結成時のメンバー（現3年生）に加え、新入生（現2年生）が多数加入し、より多様なメンバー構成となった反面、ボランティアとして活動するための場の開拓が喫緊の課題となりました。Lico内で定期的に行われるミーティング時には、さまざまな活動の提案がなされ、サークル員だけでなくその活動に参加される方も満足していただけるプランが数多く出されました。しかし、それらの活動を実現するためには

資金面の問題をクリアする必要がありました。そうした経緯で、今回、校友会の大学支援費を申請し、サークル活動の展開に充てさせていただきま

した。その支援費によるサポートをもとに、サークル員に自分たちがやってみたい企画をプレゼンすることを投げかけた結果、2019年度は「起立性調節障害の子どもたちの居場所支援」「障がいのある方のアート展」「児童養護施設での交流イベント」をLicoとして進めていくこととなりました（児童養護施設での交流イベントはコロナウイルスの影響により延期）。

「居場所支援」については、毎月2回、継続して居場所支援を実施することができ、参加する子どもたち・保護者様にとってなくてはならない活動だとの感想を多数いただきました。また、「アート展」は、福祉センターと本学の大学祭の2か所で開催し、多くの方に観覧いただきました。作品の展示を快くお受けいただいた方とご家族様が本学の展示会場にご来場いただくという嬉しいできごともありました。

このような自分たちで企画し・運営していくという経験をもとに、昨年12月には他大学で活動しているボランティア団体と学外交流のイベントを自主開催しました。学生同士の交流の機会が生まれ、お互いに良い刺激を受けたようでした。

そして今年、我々Licoの活動をご評価いただき、部へと昇格することができました。これからもLicoが掲げる「社会貢献を通じた自己の成長」をサークル員一人ひとりが意識しながら、さらなる発展を遂げられるようにしていきたいと思っております。

平成31年度 決算

自 平成31年 4月1日 至 令和2年 3月31日
 [収入の部] (金額: 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度繰越金	55,790,639	55,790,639	
会費	社会福祉学科	2,490,000	1,620,000 54名
	健康心理学科	2,820,000	1,380,000 46名
	子ども保育学科	1,950,000	1,650,000 55名
	医療福祉学科	1,320,000	930,000 介護14名、視能17名、合計31名
	医療心理学科	2,070,000	1,560,000 発達33名、言語19名、合計52名
	理学療法学科		1,290,000 43名
	小計	10,650,000	8,430,000 平成31年度卒業生、281名分
収入	寄付		20,000 理事長、学長より
	雑収入		14 銀行利息
	小計		20,014
合 計	66,440,639	64,240,653	

[支出の部]

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
事業費	卒業記念品費	500,000	574,282 平成30年度分
	大学支援費	2,100,000	2,379,675 アクティブラーニング支援、学生活動支援 (2件)
	広報費	2,000,000	2,043,357 秋の広報誌 広報活動費
	慶弔費	150,000	22,905
	総会費	1,500,000	1,292,382 懇親会、景品、案内印刷、郵送代
	イベント運営費	300,000	250,363 学年同窓会
	小計	6,550,000	6,562,964
運営費	会議費	300,000	193,959 定例会等
	幹事会費	150,000	59,357
	通信費	50,000	23,103 校友会ホームページ
	事務消耗品	1,000,000	884,015 事務用品・備品・消耗品等
	交通費	400,000	387,700
小計	1,900,000	1,548,134	
予備費	1,000,000	0	
会費返金		0	退学者、除籍者への返金
小計	9,450,000	8,111,098	
次年度繰越金	56,990,639	56,129,555	
合計	66,440,639	64,240,653	

令和2年度 予算

自 令和2年 4月1日 至 令和3年 3月31日
 [収入の部] (金額: 円)

科 目	予 算 額	備 考
前年度繰越金	56,129,555	平成31年度
会費	9,180,000	30000円×306名
合計	65,309,555	

[支出の部]

科 目	予 算 額	備 考
事業費	卒業記念品費	700,000 令和2年度卒業生分
	大学支援費	2,500,000 アクティブラーニング支援、学生活動支援
	広報費	2,000,000 広報誌、広報活動費
	慶弔費	100,000 退職記念品など
	総会費	700,000 案内印刷、郵送代
	イベント運営費	300,000 学年同窓会
小計	6,300,000	
運営費	会議費	500,000 定例会など
	幹事会費	150,000
	通信費	100,000
	事務費	1,000,000 事務用品、備品・消耗品など
	交通費	400,000
小計	2,150,000	
予備費	500,000	
小計	8,950,000	
次年度繰越金	56,359,555	
合計	65,309,555	

大学支援 (寄贈)

昨年同様アクティブラーニング支援としてiPadを40台寄贈し、それぞれの学科にて活用してもらいます。また、学内での新型コロナウイルス感染対策を充実していただくために、マスクや消毒液の寄贈を5月に行いました。



学年同窓会について

春の案内で有志を募り開催してきた学年同窓会、例年通りの開催であれば9期生を対象に行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大、未だ収束が見えない状況で開催するのは難しいと判断させていただきました。9期生を対象とした学年同窓会は次年度開催ができるように日程を調整します。

編集後記

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が絶えない中、皆さまはいかがお過ごしでしょうか? 大学においては、感染拡大防止の観点から、4月27日 (月) から遠隔授業 (Web授業) を実施しておりました。皆様におかれましても、リモートワーク、ソーシャルディスタンスを保った行動、また医療・介護の現場においては試行錯誤しながらの業務となり気苦労の多い年だったかと思えます。校友会においても、リモートでの定例会を開催し、総会、学年同窓会の開催方法、今後のことなどを議論してまいりました。現在、今年度開催できなかった学年同窓会の開催方法など議論しておりますので、対象の学年の方には改めてご案内させていただきます。校友会役員一同、コロナ過が早く落ち着き、皆様一日でも早く平穏な生活に戻れるよう、お祈りしております。(副会長: 野村)

2020年12月発行



住所を変更した場合

- 卒業年度
- 卒業学科及びコースもしくは研究科
- 氏名 (旧姓)
- 変更のあった点 (氏名、住所等)

以上4点を明記の上、下記の方法でご連絡ください。



手紙でのご連絡

〒566-0012 大阪府摂津市庄屋1-12-13
 大阪人間科学大学校友会 宛



メールでのご連絡

ohs_ko_yu_kai@kun.ohs.ac.jp



ホームページからのご連絡

http://ohs-koyukai.jp/